

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙「みらい」  
NO. 4296  
22年11月1日(火)  
Tel・Fax 095-828-1953  
文責 支部書記長

# 社員の焦りが生じる 「定時指示」はやめるべきだ

おはようございます。

早いもので今日から1月です。年賀はがきも発売され、年末に向けて忙しくなります。慌てず、焦らず業務にあたりますよう。

土曜休配がスタートして以降、月曜、火曜日が物増で、水曜日は比較的郵便が少なくなっています。

会社はこの水曜日に減区を検討する方針も打ち出しているみたいですが、職場実態とかけ離れてはいないでしょうか。先週水曜日の第3集配部の業務指示について考えます。

10月26日(水)朝の班長ミーティングで「今日の物数は55%なので、安全に配慮しながら定時を目指して帰ってくるように」との業務指示がでる。

この日は、3日間の計画配達となっていたジャパネット様差出の郵便の配達初日だった。3分の1を配達しても定時で終われるという計算なのか？

ミーティング時に職場を見てみると、ジャパネット様の郵便が道順組み立てまで終わり、ファイバーに並べられている配達区もあれば、大区分だけは終了して区分棚に入れている配達区もある。また、全く手がつけられていない配達区もあり、配達区の様子はバラバラだ。更に班によっては、その前から差し出されていたケーブルテレビ様の郵便も残っていた。



そもそも書留、ゆうパケットの物数が確定していない中で全社員に対して「定時帰局」の指示に現場の社員からは不満の声が聞こえてくる。

現場の声を代弁して定時指示について部長に「定時で配達が終わらない社員はどうすればいいのか？」と聞いたところ、「超勤になると申し出れば超勤しても構わない」との返答がきた。その旨を不満に思っていた社員に報告したところ、職場は少し落ち着きを取り戻した。



何故、大区分も終わらない状態で集配営業部に交付された郵便物の数字だけで「定時で帰局」という指示が出せるのか理解できない。この日は水曜日で会社の方針では減区の対象の曜日。来年からの試行に合わせ、超勤を少なく見せる為のものなのかと疑ってしまふ。

先日開催した支部定期大会でもこの「定時帰局」指示については組合員から様々な意見が出た。このような指示を出される、「必ず定時で帰局

しなければならぬ」と感じる社員が数多くいることがわかっていて。そのことが昼休みの休憩時間未取得や、焦りによる誤配や交通事故に繋がるのではないかと。

結局この日、定時に帰局していた社員は数人でほとんどの社員が超勤となった。中には2時間近く超勤になった社員もいた。これが現場と管理者との互いの見解が大きく乖離している実状だ。

今回のように朝からの業務指示と実際の業務運行とで大きな乖離が起きた場合には、指示が適切だったかどうか検討するべきと考えるが検討したとは聞かない。

配達するうえで誤配などの郵便事故や交通事故を防ぐにはまず、焦らず自分のペースで配達することが一番重要だ。そのペースが崩れれば事故に繋がる可能性が高くなる。



またこの日の「定時で帰局」の業務運行については第3集配営業部だけで、第1、第2集配営業部ではそのような業務指示は出されていないとの事だった。



昨年度から事故が多発している第3集配営業部だが、現場と乖離した業務指示が社員の焦りを生み、あらゆる事故を誘発している可能性も否定できない。

Dcatで班員全員がお互いの配達の進捗状況や現在位置を把握できるようにになり、互助共援もスムーズに行われている班も多いはずだ。

社員の焦りを生むような全体での「定時で帰局」というような業務指示は社員がプレッシャーに感じるだけなので行わず、班員のスキルをよく理解している班長を中心とした業務指示にするべきではないだろうか。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。ゆえに、均等待遇、なげんき差別。ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！